

1 部

学習サポート

各種申込締切について

『試験・スクーリング情報ブック』にてご確認ください。

※2025年度版は通信教育部ホームページからご確認ください。

- ・学年暦→p. 4～5 ・通信教育部カレンダー→p. 11～13
- ・演習・実習科目関連締め切り等 社福→p. 24～27 精保→p. 28～29

2025年4月以降の変更・留意点

●会場スクーリング開講日の変更【再掲】

科目：「地域福祉と包括的支援体制A」

会場：仙台 担当：大石剛史先生

日程：（変更前）秋期Ⅱ10／4・5 ➡ （変更後）秋期Ⅲ10／25・26

科目：「社会福祉援助技術演習B」

会場：仙台 担当：関川伸哉先生

日程：（変更前）11／8・9 ➡ （変更後）11／15・16

●東京会場の変更について【再変更】

東京会場は「ビジョンセンター赤坂（永田町）」（千代田区永田町1-11-28）から各ビジョンセンターへ変更になります。

【重要・再掲】2025年度4月以降の冊子版の副教材について

『試験・スクーリング情報ブック2024』 p. 18他で既報の通り、『レポート課題集A・B・C』『試験・スクーリング情報ブック』『With』は2024年度（2025年3月）をもって冊子版（印刷物）での配付を終了いたしました。各電子版（PDF）を通信教育部ホームページにて閲覧してください。

【重要・再掲】2025年度以降の各種申し込みについて

『With』冊子版の廃止に伴い、科目修了試験、会場スクーリング、各種演習・実習指導科目のお申し込みはWeb上での受付となります。

科目修了試験・会場スクーリングはポータルサイトでのお申込みとなります。

各種演習・実習指導科目につきましては、個別のご案内となります。具体的な方法については『With』各号やポータルサイト等でお知らせいたしますので、ご確認の程お願いいたします。

【再掲】幼保特例講座の延長に伴う対応について

令和6年6月に本特例制度にあたり2030年度までの延長が通知されました。これに伴い、本学における「幼保特例講座」を延長して開講させていただきます。

なお、2030年度に達する前に本学における幼保特例講座を終了する可能性もございますので、受講中の皆さまにおかれましては、お早目の単位修得を行うようお願いいたします。

アンキパンと間主観性の課題

教員 MESSAGE

教授 三城 大介

趣味はPCの自作とサボテンの栽培、それと国家試験対策です。そんな自己紹介を25年続けてきました。そして「国試はゲームだ！」と叫び続けています。

そうなんです、国試はしょせん私の中ではRPG（ロールプレイングゲーム）にすぎません。なぜなら、試験日までに合格に必要なアイテム（知識）を揃え、社会福祉という現象を史的展開や、財の移動、理論、法制度、技術、他領域との連関性といった具合にバラバラの視点で構成された「科目」として学んだものを、受験者が知識として再統合した上で試験日を迎え、問題冊子は科目ごとに作られているものの、知識として再統合しないと解き難い意地悪な引っ掛け問題の如き国試の問題を、あたかも状況に合わせて妥当性の高いアイテムを上手に使うってラスボスを倒して麗しき姫を救出するかのように挑んでいく。つまり、国試は科目ごとに作問されていますが、出題内容は科目にまたがって横断的なので、科目ごとの知識を統合する必要があります。この知識の統合力こそが合格のミソになります。まさにRPGの攻略手法です。

そのゲーム大会に参加する学生を3つの大学にまたがり25年、趣味として寄り添ってきました。

資格試験ですから、「頑張ったけど落ちて残念ね」は禁忌だし、ソーシャルワーカーという専門職に就くためには持っていて当たり前の資格です。

そして私は学生を合格させたい。

ふと、25年も続けてこれた面白味ってなんだろうと考えることがあります。

25年もやり続けているので、いくつかの合格するための仕掛けを用意し

ていますが、そういった仕掛けとは別に、大切にしていることがあります。プリミティブな事柄ですが、意識の課題についてです。

私が目指している国試対策はうるさいのが特徴です。それは、国試合格に必要な知識というアイテムを私が一方的に垂れ流すのではなく、先ず伝える、学生個々が反芻し理解したつもりになる、それを周囲に居る学生に語りわいわいがやがやする。これを繰り返すと習熟度が一気に増し、頭の中で連関性を持った国試対策に必要な知識となります。凝集性も高くなり、全体で学ぶ雰囲気も一気に高まります。「受験は団体戦だ！」ってあちこちの進学校で叫んでいるあれが一気に現実的なものになります。それがうまくいくと国家試験というゲーム大会に出場しても、出題者の意図まで汲み取りながら答えを選択することができるようになるので、一気に合格に近づきます。

その時のわいわいがやがやという場のコントロール、つまり、凝集性のコントロールがプリミティブな事柄なのですが、実に面倒臭くて難しい、なによりもその学年によって醸し出される凝集性の色が違うのが厄介です。

その厄介なものに対して私が過剰に意識して場のコントロールを試みると、多くの場合私の心が打ち砕かれます。むしろ、そこをなんにも意に介さず伝える事だけに夢中になると案外うまくいくのです。25年もやってるのに下手糞です。

これを精神現象学的に捉えると、その場に私が色気を出して「100%合格」なんて過剰に意識するから、私の主観的な意識が強く立ち現われて対象そのものに対して接近する目的を見失い、逆に、その場で私の目の前の国試に必要な知識を伝える事に専念することで、私の色気という思考を停止させることができ、その場の凝集性に強く接近できる。たぶんそこに、現象としての無意識下での邂逅が生じ、間主観性の課題をちゃんと無意識下で解決しているからなのでしょう。

単なる、学ぶ場を作るというプリミティブな作業のはずが、そこに偶有性を多く秘めているから難しいけど面白いってことになるのでしょうか。飽き性の私が25年も趣味として続けてこれた面白みは、自身がこのプリミティブな現象をコントロールできず、偶有性に依存しているからなのでしょう。

私のできなさを現象学的に思惟して、できない事の言い訳を並べてみました。そうすると、国試対策の絶対的安定の王道は、学生にアンキパンを配るってことになるんでしょう。

ちなみに、この大学に来た途端、ちょくちょく国試のプロと呼ばれます。違います、私の専門は精神科リハビリテーション学で、日本てんかん学会と日本精神科リハビリテーション学会でてんかんのある方や精神的な困難によって生き辛さを抱える方の生活の支援に関する研究をしている三流の研究者です。